

皆様、おはようございます。

金木犀の花が咲き、良い香りがします。いよいよ秋らしくなってきました。

黙示録も7章に入ってまいりました。

1 この後、わたしは四人の御使が地の四すみに立っているのを見た。彼らは地の四方の風をひき止めて、地にも海にもすべての木にも、吹きつけないようにしていた。

2 また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上って来るのを見た。彼は地と海とをそこなう権威を授かっている四人の御使にむかって、大声で叫んで言った、

3 「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない」。

地の四方の風。これは3節に、「地と海と木とをそこなってはならない」とありますように、地と海と木をことごとく損なう、害する、虐げる、努力に報いずに、不当に、不公平に扱われる、問答無用の悪しき、邪悪な働きを言います。

台風が猛威を振るい、丹頼込めて育て、やっと収穫かという作物をすべてなぎ倒してしまう、大きな木が倒れて家や車や人が下敷きになってしまう。ヨブ記の中でも突如として襲う災厄があり、家や家畜や家族が倒れる、そして悲しみに暮れるという出来事が出てきますが、四方八方から、あらゆる角度から、突如として襲い掛かる苦しみが、嵐が波風が、私たちの人生にも吹き荒れることがあります。

しかしここでは、「わたしは四人の御使が地の四すみに立っているのを見た。彼らは地の四方の風をひき止めて、地にも海にもすべての木にも、吹きつけないようにしていた。」とあります。「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない」との声があります。

地には戦争や騒乱が満ち、色々な災害がありますが、これでもまだ留められている結果であると知り、いささかびっくりいたします。

「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない」

神のしもべらの額に記しを押してしまうまでは。

印をおされた者は十四万四千人。これはイスラエルの十二部族の12にもう一回12をかけたものに更に千をかけた数字です。無限を表す数字のようにも思われますが、ある一定の有限を表す数字と考えられます。

2 コリント 1:22 神はまた、わたしたちに証印をおし、その保証として、わたしたちの心に

御霊を賜ったのである。

エペソ 1:13 あなたがたもまた、キリストにあって、真理の言葉、すなわち、あなたがたの救の福音を聞き、また、彼を信じた結果、約束された聖霊の証印をおされたのである。

エペソ 4:30 神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。

4:31 すべての無慈悲、憤り、怒り、騒ぎ、そしり、また、いっさいの悪意を捨て去りなさい。

4:32 互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。

9 その後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、数えきれないほどの大ぜいの群衆が、白い衣を身にまとい、しゅろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立ち、

10 大声で叫んで言った、「救は、御座にいますわれらの神と／小羊からきたる」。

11 御使たちはみな、御座と長老たちと四つの生き物とのまわりに立っていたが、御座の前にひれ伏し、神を拝して言った、

先の、地にあって生きる14万4千人への額の印と場所を異なって天で、御座と小羊との前であらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、数えきれないほどの大ぜいの群衆が、白い衣を身にまとい、しゅろの枝を手に持って神様を礼拝して賛美する声があります。

12 「アアメン、さんび、栄光、知恵、感謝、ほまれ、力、勢いが、世々限りなく、われらの神にあるように、アアメン」。

この群衆は、イスラエルの12部族と関係なく、あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから導かれた民ですが、先の14万4千人という人たちと区別する必要はないと思います。14万4千人という数字は象徴的な数字であって、旧約聖書における神の民とだけ断定する必要はないと思います。それは新約聖書に次のように書かれているとおりです。

ローマ 2:28 というのは、外見上のユダヤ人がユダヤ人ではなく、また、外見上の肉における割礼が割礼でもない。

2:29 かえって、隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、また、文字によらず霊による心の割礼こそ割礼であって、そのほまれは人からではなく、神から来るのである。

ガラテヤ 6:14 しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、

誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。

6:15 割礼のあるなしは問題ではなく、ただ、新しく造られることこそ、重要なのである。

6:16 この法則に従って進む人々の上に、平和とあわれみとがあるように。また、神のイスラエルの上にあるように。

6:17 だれも今後は、わたしに煩いをかけないでほしい。わたしは、イエスの焼き印を身に帯びているのだから。

6:18 兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように、アメン。

13 長老たちのひとりが、わたしにむかって言った、「この白い衣を身にまとっている人々は、だれか。また、どこからきたのか」。

14 わたしは彼に答えた、「わたしの主よ、それはあなたがご存じです」。すると、彼はわたしに言った、「彼らは大きな患難をとおってきた人たちであって、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである。

この、白い輝く衣を着ている人たちは聖徒たちですが、彼らは大きな患難を通過してきた人たちです。

ヘブル 12:1 こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。

12:2 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

12:3 あなたがたは、弱り果てて意気そそうしないために、罪人らのこのような反抗を耐え忍んだかたのことを、思いみるべきである。

12:4 あなたがたは、罪と取り組んで戦う時、まだ血を流すほどの抵抗をしたことがない。

12:5 また子たちに対するように、あなたがたに語られたこの勧めの言葉を忘れていない、／「わたしの子よ、／主の訓練を軽んじてはいけない。主に責められるとき、弱り果ててはならない。

12:6 主は愛する者を訓練し、／受け入れるすべての子を、／むち打たれるのである」。

12:7 あなたがたは訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを、子として取り扱っておられるのである。いったい、父に訓練されない子があるだろうか。

しかし、「その衣を小羊の血で洗い、それを白くした」のです。

1 ペテロ 2:19 もしだれかが、不当な苦しみを受けても、神を仰いでその苦痛を耐え忍ぶなら、それはよみせられることである。

2:20 悪いことをして打ちたたかれ、それを忍んだとしても、なんの手柄になるのか。しかし善を行って苦しみを受け、しかもそれを耐え忍んでいるとすれば、これこそ神によみせられることである。

2:21 あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。

2:22 キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。

2:23 ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。

2:24 さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。

2:25 あなたがたは、羊のようにさ迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。

私たちも大きな患難の中で傷を受け、血を流したかもしれませんが、それ以前に、主が傷を負い、十字架にかかり、私たちを罪から贖って死から命へと移してくださったことを思い起こしましょう。

15 それだから彼らは、神の御座の前におり、昼も夜もその聖所で神に仕えているのである。御座にいますかたは、彼らの上に幕屋を張って共に住まわれるであろう。

16 彼らは、もはや飢えることがなく、かわくこともない。太陽も炎暑も、彼らを侵すことはない。

17 御座の正面にいます小羊は彼らの牧者となって、いのちの水の泉に導いて下さるであろう。また神は、彼らの目から涙をことごとくぬぐいにとって下さるであろう」。

15-17節には6つの未来の約束があります。

彼らの上に幕屋を張って共に住まわれるであろう。

彼らは、もはや飢えることがなく、かわくこともない。太陽も炎暑も、彼らを侵すことはない。

御座の正面にいます小羊は彼らの牧者となって、いのちの水の泉に導いて下さるであろう。

また神は、彼らの目から涙をことごとくぬぐいにとって下さるであろう。

私たちは、四方からの嵐に吹きさらされても、額に印を頂く神の民です。

神様の贖いによりて、私たちは聖なる民に入れられており、ともに神様に賛美と感謝とを捧げるために選ばれました。私たちを悩ませるものはなくなり、羊飼いの手により導かれ、守られ、育てられ、目から涙をことごとくぬぐいにとって下さるでしょう。

しかしそのお守りが今まだ私たちに届いていないのではありません。

私たちに完全な勝利を得させて下さる神様は、私たちの額に救いの印を確かに授けるまでは、この地上には本当の災いを下されずに待っておられます。そして私たちを守る印を押しから、救われる民を選びつくされてから、いよいよ終わりの時が来ます。

市報からの患難の中にも、私たちの汚れ、地ににじむ艱難と困難の衣は、主の血潮によって洗われ、きよめられて白く輝いています。

艱難の中ですが、やがて主の日が来たる前に、私たちは、今一度涙を拭いて、すべてを満たして下さる、今いける羊飼いを見上げて、新たな力を頂いて立ち上がり、

「救は、御座にいますわれらの神と／小羊からきたる」と大声で叫び、証しに励みたく願います。

「アアメン、さんび、栄光、知恵、感謝、ほまれ、力、勢いが、世々限りなく、われらの神にあるように、アアメン」。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。四方八方から吹き付ける、人生の厳しい風雨があります。そして、神の言葉と信仰の証とのゆえに大きな患難があります。しかしその困難に汚れ、血のにじんだ衣を主はご自身の血潮で洗いきよめ、真っ白にし、聖徒を飢え渴きから守り、牧者として守り導き育て、私たちの目から涙をことごとく拭い取って下さいますからありがとうございます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々

を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン